



# 日本陸上競技選手権大会

## 鳥取で開幕

第八十八回日本陸上競技選手権大会兼アテネオリンピック代表選手選考協議会が、鳥取市の県立布勢総合運動公園陸上競技場で、六月四日（金）から八日（日）にわたり行われました。

天候に恵まれたこの大会では、三日間で延べ約三万人の観客が会場に訪れ、日本を代表するトップアスリートたちの熱い戦いに、観衆は大声援を送っていました。

この大会では、日本新記録が四つ、大会新記録が四つ生まれ、アテネ五輪の切符を八人が獲得しました。また、県勢選手も健闘し、男子やり投げで石破清志選手（TTC）が三位、男子二千メートル障害で井中将貴（中国電力）選手が三位、男子走り幅跳びで安倍翔太選手（中央大）が四位。そして、男子二百メートルで鳥取市在住の福長正彦選手（鳥取県体協）が、決勝に進み八位入賞を果たすなど、この大会を盛り上げ、地方都市で初めて行われた日本陸上鳥取大会は大成功のうちに幕を閉じました。



男子100m決勝 1着でゴールする末績選手



男子400mハードル 優勝してアテネ行きを決めた末選手（右）



大会10連覇の室伏選手



男子100m決勝 トップを走る福士選手（右）



男子200m 福長選手（左）は見事決勝進出



男子走幅跳 安倍選手は4位に入賞



男子棒高跳 澤野選手は日本記録を更新



女子100m決勝 同着優勝した小島選手（左）と坂上選手（右）



女子5000m決勝の様子



女子走幅跳を制した花岡選手